

12 月 1 日(木曜日) 大量の落ち葉をかき集める！

駐車場からビジターコテージへの散策路・「陽だまりの丘」周囲の散策路

【参加者：池本幸、越智宏、越智美、梶川、木谷、芝田香、芝田美、鈴木哲、鈴木明、中、濱田

計 11 名



毎年恒例の落ち葉掻きである。

職員駐車場からビジターコテージに向かう散策路には大量の落ち葉が積もっていた。坂のためすべりやすくなっているのここから始めることにした。その後、「陽だまりの丘」を一周する散策路の落ち葉掻きを行った。

腐葉土は、広葉樹などの落ち葉を微生物が細かく分解することができ、植物が育ちやすいように土の状態を改良してくれる堆肥である。

土に混ぜることで、土の中の微生物が増えて土壌に栄養分を増やす効果があり、保肥性が高まるので、やせた土を蘇えらせてくれる。また、落ち葉が不揃いな形・大きさに分解された腐葉土は、土の中でほどよい隙間を作り出し、新鮮な空気や水を適度にためて流していくので保水性と排水性が向上することになる。そして、腐葉土は保温効果があるのでマルチング材としても使うことができ防暑・防寒対策にも有効である。雑草・泥はねの防止にもなる。

このような自然の恵みを利用しない手はないと、毎年せつせと落ち葉掻きをして腐葉土を作っているモリメイトである。

12 月 8 日(木曜日) 落ち葉でビートルズベッドいっぱい

【参加者：池本、越智宏、越智美、梶川、木谷、芝田香、芝田美、鈴木哲、鈴木明、中、濱田 計 11 名】

ビジターコテージからサギソウ園に続く散策路の落ち葉掻きを行った。今日の軽トラ 2 杯分と先週の分を合わせて、ビートルズベッドはほぼ満杯になった。みんなで踏み込んで、さらに「カブトムシの森」周辺の落ち葉を入れ、これ以上入らないというところで落ち葉掻きを終えた。

その後、シイタケの原木 30 本を作った。



12月15日(木曜日)

「シイタケの菌打ち体験」で使う原木を準備

【参加者：池本、梶川、木谷、芝田香、芝田美、鈴木哲、鈴木明

計 7 名】



「カブトムシの森」周辺の密生したコナラや斜めに飛び出している枝を除伐し、シイタケの原木 30 本を作った。笹がはびこり枯れ枝もたくさん落ちているため足場が悪く除伐しにくい場所であったので安全には十分気を付けて行った。枯れ枝を取



り除き、木も適度な間隔をあげ、他の木を邪魔していた枝も取り除いたので、荒れていた森がスッキリした。前に準備していた 120 本と合わせて必要な本数 150 本を用意することができた。



葉土になり、そこに住み着いた虫が幹を食べるといふ被害が見つかった。そこで、他の植樹地のネットの下に溜まった葉も取り除いていった。

第 1 回目に植樹したクヌギが幹も太く高さが 3 メートルにもなっているものがあつたので、獣害ネットを取り外したときに、幹の下に溜まった落ち葉が腐



神戸小学校での菌打ち体験について話し合う

森づくりサポートセンターの坂上さんから、「来年 3 月に閉校になる神戸小学校から、小学 1・2 年生 21 人にシイタケの菌打ち体験をさせてあげたいと依頼があつたので、原木の用意と菌打ちの補助をしてもらえないか。」と連絡があつた。

そこで、この日の活動後、神戸小学校へ行き、1 年生担任の原先生、2 年生担任の大都市先生、シイタケ栽培家の廣島さん、森林組合の前田さん、坂上さん、モリメイト 3 人で話し合いを持った。廣島さんのシイタケ栽培の豊富な経験を聞いたり、先生方の閉校になるにあたっての子どもたちへの思いを聞いたりして、とても和やかで有意義な話し合いになった。

右は、当日の概要。

シイタケの菌打ち体験

日時	1 月 26 日(木曜日)第 2・3・4 限目
場所	神戸小学校体育館
内容	・森林組合前田さんの話 ・シイタケ栽培家廣島さんの話を聞いた後、シイタケの菌打ち体験 ・モリメイトの話 ・感想を出し合い、交流